

都留市の広報を録音して、そのテープを目の不自由な方や、高齢者にお届けする活動をボランティアサークルひびきの会のメンバーと共に続けて二十六年になります。

初めの頃は、犬の声、鶏の音が賑やかにバックミュージックよろしく録音され、「親近感があって良い」との温かい反響に嬉しいやら恥ずかしいやらの繰り返しでした。その後、文化会館の視聴覚室で録音し、いきいきプラザが出来てからは、完備した録音室で、録音器に少しづつ慣れながら『声の広報』として、毎月滞りなく届けています。保存テープは三〇〇本余りにもなりました。

広報だけではなく、市議会などでの録音は声のだし方、漢字の読み、言葉の意味は勿論、沢山の行事、市政の動向、議会の構成、社会情勢を理解することが大切で、それは様々な事柄に関心を持つことにつながっています。

最近では声の広報ばかりでなく、ミュージアム都留の秋元三代企画展における「土一升、銭一升」、茶壺道中展の『お茶壺狐』など、市内の歴史研究家による民話や書き下ろしの物語を構成して語ったり、絵本にみるジェンダー、親子で戦争を読むと題して、テレビ会議システムを使った読み聞かせにも挑戦してみようと次々に新しい取り組みを企画実践しています。



図書館や小学校での読み聞かせでは、子どもの素直な心に触れ、施設では障害にも負けない明るい眼差しに接し、読み手側はいつも大きなものを受けています。また、ひびきの会の研修を経て新たに発足した『こぶたの会』の皆さんも意欲的に活動し、交流の輪は広がっています。

朗読・音訳を通して、子どもたちが民話や伝説に触れ、戦争と平和、命の尊さについて心のひき出しをいっぱいにして欲しいと願う。その思いが、グループそれぞれの出会いとなり、健康づくりともなっており、私たちのよりよい糧となっています。



生涯学習通信 生涯学習推進会議

のびのび いきいき 生涯学習

『わたしの生涯学習』



農事の事。去年の十一月、十二月畑の甲州百目の柿の木二本にアタック、凡そ一、五〇〇個位の収穫、枯露柿作りに精を出す。余緑に秋空の下、柿の木にまたがって熟柿を頬張る、おいしかった。あつちの枝こつちの枝、持病を忘れて食べた。

枯露柿の仕上がりは上々だった、亡くなった姉さんのお得意さんにお歳暮として贈ることができた。(お姉さんの畑やれやれという思いでした。でも年が明けて正月に入って、柿の食べ過ぎが祟って持病が悪化、葉の厄介になった。

一月、二月足許が覚束無くなった、ゴルフのお呼びがかかったけれどクラブが握れなかった。沈静化に手をやいた。

三月月上旬体調も上向いたので、春の畑の準備に取りかかる。馬鈴薯、里芋、玉蜀黍の下地、グリーンピースの支柱たて、馬鈴薯だけは土にあづけた。何て気の早い、理由は中旬に仲間と恒例の世界遺産巡りに加わるためである、気もそぞろの春の農作業でした。

世界遺産巡りの事。ここ十年程、なんとなく海外へ足が向いてしまう。中国、エジプト、イタリヤ、カンボジア、と巡って今年にはベトナム中部・北部のホイアン、フエ、ハノイへ足を向けた。ホイアンでは米遠橋やミーン遺跡、フエではフエ王朝のミンマン帝陵や旧市街をそぞろ歩いた。シクロ(人力三輪車)の厄介にはならなかった。ハノイではハロン湾クルーズを楽しんだ。ホイチミン廟ではベトナムの人達のホイチミンに対する敬慕の念の篤さに心打たれた。それからベトナムの田園風景は緑濃い素晴らしいものであった。三毛作ができる稲作、かなわないと思う。

謠の事。四月に入って鞍馬天狗、天鼓。六月には千寿と発表する機会がある。発表会があるからということ、いつもの調子で付け焼き刃なものだから本当の謠になっていない鞍馬天狗の舞囃子の地謠が年のせいばかりでないだろうがなんとなく変調調で拍子に合わない、日常の稽古が足りないことは判っているのだが、やはり駕馬に鞭打って頑張らねばならないと思う。

